

「コンピュータ・プログラムの著作権」 掲載にあたり

平成 18 年度著作権委員会

第 1 部会長 川 崎 仁

平成 17 年度著作権委員会では、著作権に関し、弁理士が日頃の業務で直面しそうな局面をとらえて、「コンピュータ・プログラムの保護」、「フォント・タイプフェイスの保護」、「設計図の保護」、「実用品のデザインの保護」、「著作者」、「著作者人格権」、「著作権と所有権との関係」、「二次的著作物」、「キャラクターの保護」、「私的使用のための複製」、「引用」および「パブリシティ権」を題材としてまとめ、2006 年 1 月号に「著作権実務ガイドライン」として掲載した。

本稿は、その続編ともいえるべきもので、著作物の中で弁理士にとって最もなじみの深い「コンピュータ・プログラムの著作権」をより深く掘り下げて研究し、各テーマにつき平成 18 年度著作権委員会第 1 部会の各委員が執筆したものをまとめたものである。

会員がコンピュータ・プログラムの著作権について考えるとき、本稿が少しでもお役に立てれば幸甚である。

コンピュータ・プログラムの著作権

- ・プログラムの著作物性（著作権法上のプログラムとは何か） 井上 正
- ・コンピュータ・プログラムの著作権（著作者・著作者人格権、著作権） 川崎 仁
- ・プログラムに関する著作権の制限（同一性保持権の制限、複製権・翻案権の制限） 小笠原健治
- ・著作権契約（リバースエンジニアリング） 丸山 温道
- ・プログラムの登録（プログラムの著作権に係る登録の特例に関する法律） 笹山 温子
- ・技術的保護手段（技術的プロテクト）について（技術的保護手段の定義等） 岩崎 博孝
- ・コンピュータ・プログラムの著作権法と特許法とによる保護の変遷 木村 勢一